

JAPA が合同例会

「自動車優良部品推奨証書」をメーカーに

日本自動車部品協会（JAPA、松村正史理事長）は10月23日、大阪市内で正・準会員が集う合同例会を開催した。本年5月に改定した新たな「自動車優良部品推奨制度」において認証されたメーカーに推奨証書が渡された。



正副理事長と推奨メーカーの皆さん

重要性増す優良部品

例会の冒頭、松村理事長はあいさつで次のように述べた。

「自動車産業は日中の経済関係悪化が大きく影響してくると思うが、長引くまたは一層ひどくなると影響を受ける部品メーカーもあることを危惧する。補修部品業界においては車の使用年数が年々延び、底堅い需要に支えられ堅調に推移しており、当面はこういう状況が続くのではないが、廉価で汎用性があり品質がよい優良部品の役割が一層増していく。これからもJAPPAは新しい推奨制度の活用を主体に優良部品の普及に励み、自動車社会の安心と安全に一層の貢献をしたい」。

10月1日に準会員として入会した



あいさつする松村理事長

マフラーメーカー、大栄テクノの木村高之常務取締役自動車事業部長、また社長として初めて合同例会に出席した中央自動車工業の坂田信一郎社長、三恵工業の小西庄次郎社長が紹介された。

さらに11月1日からブレーキパーツメーカーの制研化学工業が準会員として入会することが発表された。

推奨メーカーに証書

新たな「自動車優良部品推奨制度」においてはすでに16社が認証を受けた。同制度はJAPPAが優良部品の品質や性能の向上を図るとともに粗悪品を排除し、補修部品市場の健全な発展、優良部品の地位向上などを目指して発足させたもの。しかし1972年の発足からマーケットが大きく変化したため、見直しを行い時代に即した制度に改めた。

松村理事長は「制度を有効に活用し、品質のよい商品、市場で安心して使ってもらえる商品だけを選別して流通することで、業界の信頼と社会の安心安全を守り、貢献したい」と改めてJAPPAの姿勢を示した。

認証された企業のうち例会に参加

佐野先生はJALで15年間国際線に乗務



した9社（大野ゴム工業、エイケン工業、武蔵オイルシール工業、三恵工業、ドーワ、東洋エレメント工業、パシフィック工業、大東プレス工業、大栄テクノ）に松村理事長から推奨証書が手渡された。

轟理事から1～6月におけるJAPPAの輸出動向、佐藤事務局長から4～9月における会計報告が行われ、例会を終了した。

例会終了後はホスピタリティマイスター佐野昭子氏による、組織の活性化や目標達成のためのリーダーのあり方をテーマにした記念講演会を行った。